

(10) 生徒指導研究会

会 長 中川 智之 (中村中)
副会長 上田 壮 (下田小)
事務局 中西 佑太 (中村西中)

1. 研究主題 「組織的に対応できる生徒指導のあり方」

2. 研究経過

実施年月日	研究のあらまし	会場	備考
令和5年 8月4日(金)	夏季研修会 ①スクールカウンセラーによる講話 「不登校の現状と効果的な支援について」 講師：小松 宏暢、西岡 美緒、三吉 祐奈 (高知県教育委員会 人権教育・児童生徒課) ②四万十市少年補導センターからの報告 「四万十市の現状」 講師：滝口 雅寛 (四万十市少年補導センター)	中村中学校	13名参加

3. 夏季研修会

(1) 日 時 令和5年8月4日(金) 8:45~11:05

(2) 会 場 四万十市立中村中学校 図書室

(3) 日 程 開会 (8:45)

スクールカウンセラーによる講話と協議 (8:50~10:15)

四万十市少年補導センターからの報告 (10:30~11:00)

閉会 (11:05)

(4) 研修内容

今年度の夏季研修会では、高知県教育委員会人権教育・児童生徒課より小松 宏暢、西岡 美緒、三吉 祐奈カウンセラーを講師に招聘し、研修前半は不登校の実態や対応について、講話や事例を踏まえたグループでの協議を行った。研修の後半では四万十市少年補導センターの滝口 雅寛先生を招聘し、四万十市の児童・生徒の現状を中心に、実際に四万十市周辺の写真やSNSに関するアンケートの集計結果の報告をしていただいた。

不登校の現状と支援についての講話では、不登校児童生徒数が年々増加傾向にあることや中学1年生を境に一気に数値が上がっていることを教えていただいた。1000人当たりの不登校生徒数を見ても、59.9と前年度と比較すると-1.3ではあるが高い数値が示されていることが分かった。不登校のきっかけとしては、無気力・不安、友人関係をめぐる問題、生活リズムの乱れ、SNS等の問題など多くの要因が関わっていることが分かった。グループごとの協議では、不登校の架空事例

をもとに、どのような対応や支援が考えられるかを検討するなど充実した研修を実施することができた。

不登校支援のポイントとしては、不登校の児童生徒が回復過程のどの段階にいるのかを見立てることや家庭訪問・電話連絡によって関係性の構築に努めることが大切だと教えていただいた。また、スモールステップを心掛けること、初期段階では背景の問題解決を早急にすることが重要だと学ぶことができたので、学んだことを各校で生かして不登校生徒と向き合って改善していきたい。

四万十市少年補導センターの滝口 雅寛先生からの報告では、主に SNS に関するアンケートの集計結果から見られる課題等についてのお話をしていただいた。四万十市では、インターネットの利用率が小学生 91.1%、中学生 95.8%と非常に高く、利用時間（2 時間以上の利用）においても小学校が平日 23.4%、休日 58.7%、中学校では平日 56.7%、休日 78.8%と多いことが分かった。個人専用のスマホ所持率についても、中学校では 80%を超えており、利用内容では SNS やゲームだけでなく、保護者の知らないところで携帯を利用した買い物をしているなどの問題が明らかになった。また、中学生ではインターネットでしか知らない人がいると答えた生徒も多く、事件やネットトラブル増加の危険性もあり、学校全体でトラブルの未然防止や解決に努める必要があると感じた。フィルタリングや使用制限機能の設定・家庭でのルールづくりの数値が低くなっていることから、家庭と連携して学校ができること、家庭ができることについて今後考えていく必要があるということを知ることができた。

4. 今年度の成果と課題

夏季研修会では講師の先生方をはじめたくさんの方々にご協力いただき、講話やグループでの協議、情報共有を通して各校の先生方と交流して大変有意義な研修を行うことができた。今回の研修内容を各校に持ち帰って共有し、不登校児童生徒への効果的な支援や、SNS 等の問題解決・未然防止などに努めていかなければならないと感じた。

今後も四万十市教育研究会の夏季研修を通して、研究主題である「組織的に対応できる生徒指導のあり方」について各校の先生方との学びを深め、日々の学校現場で実践していきたい。